



あすなろ薬局だより

機能性ディスぺプシアってどんな病気？ 2017.3

機能性ディスぺプシア（FD：functional-dyspepsia）とは、胃の痛みや胃もたれなどのさまざまな症状が慢性的に続いているにもかかわらず、内視鏡検査などを行っても、胃潰瘍・十二指腸潰瘍や胃がんなどのような異常が見つからない病気です。生命にかかわる病気ではありませんが、つらい症状により、患者さんの生活の質を大きく低下させてしまう病気です。

主な症状は「つらいと感じる食後のもたれ感」「食事開始後すぐに食べ物で胃が一杯になるように感じて、それ以上食べられなくなる感じ（早期飽満感）」「みぞおちの痛み（心窩部痛；しんかぶつう）」「みぞおちの焼ける感じ（心窩部灼熱感；しんかぶしゃくねつかん）」の4つです。

日本人の4人に1人は機能性ディスぺプシアを持っているという調査結果もあり、決して珍しい病気ではなく、誰もが罹患する可能性のある病気です。

この「機能性ディスぺプシア」という病気の概念は、近年になって新しく確立したものです。それまでは、機能性ディスぺプシアの患者さんの多くは「慢性胃炎」や「神経性胃炎」と診断されていました。

本来「胃炎」とは、胃の粘膜に炎症が起きている状態を表す言葉です。ところが、胃炎があっても症状があるとは限らず、逆に症状があっても胃炎が認められないことも多々あります。そこで、症状があってもそれを説明できる異常がさまざまな検査でも認められない場合、胃に炎症があるなしにかかわらず「機能性ディスぺプシア」と呼ばれるようになりました。



機能性ディスぺプシア（FD）の治療は、生活習慣の改善を基本に、さまざまな薬物療法が行われます。

機能性ディスぺプシアの患者さんに好ましくない生活習慣として過食（とくに脂っこいもの、甘いもの、刺激の強いものの摂りすぎ）、早食い、不規則な食事生活、喫煙、過度の飲酒などがあります。胃に不調がある場合は食生活を見直してみてください。

また薬物療法としては消化管運動機能改善薬、酸分泌抑制薬、抗うつ薬、抗不安薬、ピロリ菌を除菌などがあります。

機能性ディスぺプシアの診断や治療は、医師が患者さんの症状をきちんと把握することから始まります。病院・診療所を受診した際は、自覚症状を医師にできるだけ詳しく伝えましょう。

製薬メーカー「アステラス」ホームページより引用

お近くのあすなろ薬局にご相談ください。

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。（お薬によっては時間がかかることがあります）
薬・健康食品・サプリメント等についてのご相談を受け付けています。

（甲府）055-228-4024（巨摩）055-283-3050（石和）055-263-1568（武川）0551-26-3800（大月）0554-20-1301